

うばしじんじゃほんでん
菟橋神社本殿

種 別	小松市指定文化財 建造物
指定年月日	昭和 58 年 11 月 1 日
所 在 地	浜田町（菟橋神社）

菟橋神社の歴史は古く、『延喜式神名帳⁽¹⁾』にもその名が記載される古社である。当初は得橋郷小野村に所在する郷内の総社であったが、中世末に上小松村に遷り、続いて前田利常の小松在城時には小松城内の菟橋御門内に奉遷された。さらに慶安 4 年（1651）、浜田村の現在の位置に遷座したと伝えられる。

「慶安四年三月吉日」と記された^{かえるまた}蟻股が残されており、現在の社殿は慶安 4 年の遷座の際の建物と伝えられる。また貞享 2 年（1685）の寺社由緒所には、加賀藩御大工山上善右衛門が造営に関わったとの記載もされている。

建物の様式は隅木^{すみきづ}付き春日造りである。隅木^{すみきづ}付き春日造りは、前側が入母屋屋根、後側が切妻^{きりつま}屋根となった珍しい建築様式で、石川県内で本件が唯一の事例である。

- (1) 延喜式神名帳：延長 5 年（927）にまとめられた『延喜式』の巻九・十のことで、当時の「官社」に指定されていた全国の神社一覧が記された。

